

【クリエイティブ・ディストラクション・サロン produced by 佐久間洋司】
**2030の私達の時代にAI・IoTはどんなビッグデータを
を生み、進化しているか？ -vol.1-**

日時：2019年7月1日（月） 18:30～21:00

会場：大阪イノベーションハブ

主催：大阪イノベーションハブ（大阪市）、公益財団法人大阪産業局

共催：人工知能研究会 / AIR

協力：伊藤忠商事株式会社、パナソニック株式会社

後援：公益社団法人関西経済連合会（予定）、大阪商工会議所（予定）、一般社団法人関西経済同友会

サロンの目的

最先端のテクノロジー・ビジネスを学び、議論することで、
若者によるコミュニティをつくり、2025年に向けた日本
をつくるリーダーを大阪から生み出す

＝招待制・少数精鋭のコミュニティをスケールしていく

サロンの概要

月ごとに異なるテーマで、世界的に活躍する研究者・
起業家をゲストとして招いて開催

ファシリテーターによる切り込んだパネルディスカッション
で、表面的な情報にとどまらない深い知識を得る勉強会

【テーマ候補】

テクノロジー：人工知能、バーチャルリアリティ、
セキュリティ、バイオヘルス、ブロックチェーン

ビジネス：フィンテック、シェアリングエコノミー、
宇宙開発、ソーシャルネットワーク

最終回：人の意識に働きかける科学技術（予定）

ファシリテーター



佐久間洋司

人工知能研究会 / AIR 代表

1996年東京都生まれ。大阪大学で1年次から知能ロボット学研究室の研究生として石黒浩教授の指導を受け、人工知能やバーチャルリアリティを用いて人間の意識に働きかける研究に取り組む。

人工知能研究会 / AIRの代表、人工知能学会誌の学生編集委員長を務めるほか、世界経済フォーラム（ダボス会議）が認定する『Global Shapers』にも選出される。

深層学習の発祥の地であるカナダ・トロント大学で約1年間の交換留学を経験し、Panasonic Silicon Valley Lab で半年間のインターンにも従事。

高い志と異能を持つ若手人材を支援する孫正義育英財団の第2期生に認定される。

第1回 人工知能

2030の私達の時代にAI・IoTはどんなビッグデータを 生み、進化しているか？



本村陽一先生

国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター首席研究員
博士（工学）、国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究セン
ター 首席研究員/確率モデリング研究チーム長、東京工業大学特定教授、
統計数理研究所客員教授、神戸大学客員教授兼務

1993年通産省工技院電子技術総合研究所入所以来、人工知能、機械学習、
確率モデルの研究に従事。2003年IPA未踏ソフトウェアスーパークリエー
ター認定。産業技術総合研究所サービス工学研究センター副センター長、
情報処理技術研究部門副部門長、人工知能研究センター副センター長など
を経て、2016年4月より現職。産総研人工知能技術コンソーシアム会長。
これまで200社を超える企業との共同研究、経産省、厚労省プロジェクト
などに従事。現在、NEDOプロジェクト次世代人工知能技術研究開発など
の国プロと社会応用を推進。人工知能学会、サービス学会、行動計量学会
理事なども歴任。

第1回の語彙

人工知能…（ \supset 機械学習 \supset 深層学習）

データとアルゴリズムで認識や推論を実現するプログラム

機械学習…データをもとに複雑な関係を定量化し、新たなデータについても予測ができる関数

深層学習…計算機資源と巨大なデータの恩恵を受け、
ニューラルネットワークを「深く」した手法

ビッグデータ…一般的なデータ分析の手法やソフトウェア
で扱うことが難しいほど巨大なデータの集合

トピック①

サイバーフィジカルデータのプライバシー

生体情報や個人に紐づくデータをどのように収集・管理、
個人を特定しない形で学習させることができるだろうか？

どのような技術的対策、法制度の整備が必要か

トピック②

人工知能の評価、効果測定の方針

従来のデータサイエンスに比べると評価が難しい機械学習
そして、その効果を測定することも簡単ではない
機械学習が「工学」となるためには何が必要か

トピック③

現象の計算モデル化の実際のフロー

**現実世界で起こる現象は人間の直感と反することもある
データと向き合い、どのような考え方で「計算モデル化」
に取り組んでいるのだろうか？**

トピック④

デザインシンキングをするのはだれか？

データの収集・ゴールの設定も含めたデザイン、システム、
全体の設計をするために必要な情報とスキルとは？

研究者か政策決定者か、誰が考えるべきなのだろうか

トピック⑤

人工知能と各種業態の変化

人工知能には格がないのだから「仕事を奪う」ことはない
それでも様々な応用は仕事のあり方を変えていく
社会のAI理解と研究者の認識をすり合わせる

トピック⑥

短期的な人材流動の行く末は？

「AI人材」の教育が盛んに進められている
短期セミナーも数多く開催され、転職が促されている
急激すぎる人材流動の先に危険はないのだろうか

トピック⑦

G20の「大阪トラック」について

データ・フリー・フロー・ウィズ・トラスト
プライバシーやセキュリティを保護しながら、国境を越え
たデータの自由な流通を確保するための国際的ルール

トピック⑧

大阪・関西万博を産業に繋げるには

言い方を変えれば、半年間だけこしらえた博物館
大阪の経済・産業にどう関連させることができるか？
特に人工知能などの技術はどう「展示」できるのか

トピック⑨

研究者とアーティストのアナロジー

(論文・学会・研究者) \approx (作品・展示会・芸術家)

現代において数少ない「個人」として生きる職業
画壇や学会に属さない現代芸術家はあり得るか etc.

トピック⑩

企業人が「個人」として生きるには

社会を織り成すスキルが移り変わる中で、
一人の個人として磨き続けることが必要ではないか？
SNSやnote・技術ブログはその助けになるか etc.